

## 編 集 後 記

未曾有のコロナウイルスの大規模感染拡大と予防対策は長期戦を呈する模様です。しかしながら、平常生活を取り戻すための施策も推し進められており、皆様の研究活動におきましても新たなステージへの進展が訪れることを切に願っております。また、このような状況におきましても、精力的に論文等を投稿していただいた皆様並びに論文の査読を快く引き受けていただいた先生方に対しまして心から感謝申し上げます。

本号は原著論文1編、症例報告2編並びに最近のトピックス1編の投稿をいただきました。原著論文では、高橋昌己先生（解剖学分野）から下顎智歯根尖部に生じたセメント質骨性異形成症のマイクロCT等を用いた詳細な形態学的検討の結果が示されており、同形成症の発症過程におけるセメント質と血管ネットワークとの密接な関係が示唆されています。症例報告では、今野正裕先生並びに今野 萌先生（函館こんの歯科・矯正歯科）から、片側性唇顎口蓋裂の既往を有する成人患者に対する非外科的矯正治療と上顎前方牽引装置を使用した成長期の重度開咬を有する骨格性下顎前突に関する症例が、それぞれ紹介されています。また、最近のトピックスでは、薬理学分野のMST. Tahmina AKTER先生からピロカルピンを用いたドライマウス治療における唾液分泌改善機構に関する最新の知見が紹介されています。いずれも大変興味深い内容ですので、是非ご一読ください。

コロナ禍において感染拡大予防のため、研究発表や教育体制はオンラインやオンデマンド化への変貌を余儀なくされました。しかしながら、紙や鉛筆或いは人々の触れ合いの重要性は何時の時代になっても普遍であり、これらの基盤はこれからも変わらないものであると信じています。本誌も、大変興味深く読ませていただき、雲外蒼天を信じる希望と勇気を与えていただきました皆様に深謝いたします。今後も、歯学雑誌のさらなる充実に努めて参りますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようどうかよろしくお願いいたします。(石井 記)

次号（第41巻、第2号）の発行は令和4年12月31日です。

投稿原稿募集の締め切りは令和4年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2022年第41巻、第1号の巻末をご参照ください。